



命が咲いてゆく町

ぼたんの花が咲いて

あじさいの花を染めて

菊のつぼみが風に揺れてる

愛しきふるさと 南部町

合併20周年記念
2026 青森県南部町町勢要覧

子どもたちの未来に、 安心という土台を

私がまちづくりで大切にしている柱は、「教育」「産業・経済」「医療・福祉」の3つです。人は学び、働き、やがて医療や介護を必要とする時期を迎えます。生まれてから人生の最終段階まで、この3つを切れ目なく支えることが、まちづくりの基本だと考えています。

特に力を入れてきたのが、子育て世代への支援です。町長就任以来、若い職員や子育て世代の保護者と対話を重ね、「教育にはお金がかかる」という切実な声を数多く耳にしました。私自身も若い頃は都会で暮らし、限られた生活費でやりくりした経験があります。だからこそ、子育て世代の不安や負担を少しでも軽くしたいという思いで、「行政として何ができるのか」を職員と共に考え続けてきました。

もちろん、何でも実現できるわけではありません。制度は一度始めれば、途中でやめることはできません。だからこそ、財政とのバランスを慎重に見極めながら、「将来にわたって続けられる支援か」を何度も議論し、実現可能なものから形にできました。

現在は、子どもの医療費助成をはじめ、おむつ・ミルク代への支援、保育料の無償化、ランドセルや制服代、修学旅行費への支

援、高校生・大学生への修学支援金や貸付け、医学生への奨学金制度など、成長段階に応じた支援を行っています。どれも、子どもたちの未来を地域全体で支えたいという思いから生まれた取り組みです。

また、若い世代が安心して暮らし続けられるように団地の整備にも力を入れてきました。旧学校跡地を活用した分譲地には多くの子育て世帯が暮らし始め、子どもたちの元気な声が響く新たな地域コミュニティが育っています。人口減少に特効薬はありません。それでも、一人ひとりが安心して子ど

町長メッセージ

人生を支える、 まちでありたい

南部町長 工藤祐直

もを育て、この町で暮らしよかつたと思える環境を積み重ねていくことが、未来への一番確かな投資だと私は考えています。町政を預かってきた20年、その思いは変わることはありません。

支え合う地域が、 暮らしを豊かにする

安心して暮らせるまちは、行政だけではつくれません。災害時、行政がすぐにすべての地域へ駆け付けられるとは限らないからこそ、日頃から地域で支え合える体制を整えておくことが大切です。その中心となるのが、自主防災組織や町内会の存在だと考えています。

南部町では、各町内会に地域担当職員を配置し、地域の声を行政につなぐ取り組みを続けています。住民の皆さんと一緒に地域の課題を考え、解決につなげることは、行政の大切な役割です。町と地域が日頃から



顔の見える関係を築いていることが、いざという時の安心にもつながっています。

しかし、町内会は「必要だから」という理由だけで続くものではありません。少子高齢化が進む中、地域の活動を次の世代へ受け継いでいくためには、若い世代が自然に地域へ関わるきっかけが必要です。

その役割を担っているのが、町内の各地域に受け継がれてきた伝統芸能や祭りです。地域には、南部手踊りや民謡、神楽、えんぶりなどを長年受け継いできた多くの師匠がいます。子どもたちは師匠から直接学び、祭りで披露する中で、伝統と人とのつながりを受け継いでいます。地域との関わりは、こうした活動の楽しさや誇りの中で自然と育まれていくものだと思います。

こうして育まれた地域での経験は、やがて「この町が好き」という気持ちにつながっていきます。子ども頃の楽しかった思い出や、地域の皆さんとの触れ合いは、大人になってからも心の支えになります。そうした地域への愛着を次の世代へ受け継いでいくことも、私たちのまちづくりには欠かせないと考えています。

人を育み、未来へつないでいく

未来の南部町を考える上で、名久井農業高校は欠かすことのできない存在です。農

業を学ぶ学校であると同時に、本町の基幹産業である農業を支え、将来の担い手を育てる地域の財産でもあります。

人口減少が進む中、町・町議会・PTA・後援会・同窓会などが連携した応援団体を立ち上げ、高校魅力化コーディネーターの配置や「地域みらい留学」への参加など、高校の魅力化に取り組んできました。農家や住民の皆さんと関わりながら高校生活を送る3年間は、生徒たちにとって大きな財産になります。そして、生徒を迎える地域にも新しい出会いや刺激をもたらしてくれています。

人を育てる場は学校だけではなく、農家や住民の皆さんが生徒を温かく迎え入れ、共に学び、共に成長する。そんな地域ぐるみの教育こそが、名久井農業高校の大きな魅力であり、南部町らしさでもあると思います。

来春には、戦時中に南部町へ疎開した黒柳徹子さんの記念ルームを南部町歴史ミュージアム内に開設する予定です。この構想の始まりは、8年ほど前に届いた1枚の匿名の葉書でした。「記念ルームをつくってはどうか」という提案が書かれた葉書を私は大切に持ち歩きながら、多くの人に「こんなことができたらいいですね」と話してきました。そんなある日、テレビ番組「徹子の部屋」で、黒柳さんが疎開時代の思い出を語り、「南部町に行ってみた」と話される姿を目にしました。その言葉に「今こそ形にしたい」と動き始めたのです。長い年月を経て実現へ向かうこの取り組みも、1枚の葉書から始まった人と人との縁が、少しずつ形になったものだと感じています。

人を温かく迎え入れ、その縁を次の世代へ受け継ぐ。南部町には、昔からそんな風土があります。子どもたちの未来を支え、地域への愛着を育み、人と人との縁を未来へつないでいく。その積み重ねが、南部町のこれからをつくと信じています。町民の皆さんと共に、一人ひとりの人生を支えるまちづくりを、これからも着実に進めてまいります。

プロフィール——工藤祐直（くどう・すけなお）

昭和30年（1955）、青森県南部町生まれ。明治学院大学法学部を卒業後、民間企業を経て旧名川町役場に就職。その後、平成12年（2000）に旧名川町長に就任、平成18年に合併による新生南部町の初代町長に就任し、現在6期目、通算8期目。



特

集

トットちゃんがいた南部町

俳優、エッセイストで名高い黒柳徹子さんは、昭和20年（1945）3月10日の東京大空襲後、12歳の時に母親と弟と妹の4人で、戦前、偶然知り合った農家を頼りに旧平良崎村（現南部町）の諏訪ノ平に疎開しました。それから終戦を経て昭和21年（1946）の夏休みまで、三戸町立高等女学校（現青森県立三戸高等学校）に通い、級友や町民と交流しながらさまざまな体験をしています。

その後、黒柳さんは令和8年（2026）2月に放送開始から50周年を迎えたテレビ朝日の「徹子の部屋」で多彩なゲストを迎え、また、ユニセフ親善大使などの平和活動を通して人と人を結ぶ心の懸け橋となりました。

町では、黒柳さんとのご縁を大切にしようと、「歴史を伝える」「平和の精神と勇気を育む」「郷土の助け合いの精神の継承」を目的とする「黒柳徹子記念ルーム」を、令和9年（2027）4月1日に開館する予定です。（*本文には「窓ぎわのトットちゃん」から、適宜、引用しています。）



1

偶然の諏訪ノ平疎開

国民的スターの黒柳徹子さんは、ベストセラーになった『窓ぎわのトットちゃん』でも知られますが、この「トットちゃん」という呼び名は、幼少期に自分の名前をよく言えずに「テッコ」ではなく「トット」と言っていたからだといわれています。

そのトットちゃんが東京北千束から諏訪ノ平に疎開してきたのは、昭和20年（1945）3月半ば頃で、父親の守綱氏は前年の春に出征していたため、ママの朝さん（愛称はチョッチちゃん）と長女の徹子さん（12歳）、次男の紀明さん（6歳）、次女の眞



2

- 1 三戸町立高等女学校時代の黒柳徹子さん
- 2 諏訪ノ平駅舎／駅舎は開設92周年を迎え改築することに。
令和7年10月2日、駅改築整備推進協議会による「駅舎お別れの会」が開催された
(地域住民と挨拶する西舘隆会長)
- 3 諏訪ノ平駅付近の風景／下に鉄路が走り、その左側のリンゴ畑に
黒柳一家のリンゴ小屋があった。背景に見えるのは名久井岳 (令和8年4月17日)
- 4 黒柳一家が仮住まいしたリンゴ小屋内部／昭和62年に西舘隆さんが再現した (令和7年10月2日)

理さん(2歳)の4人でした。長男の明兒さんは残念ながら前年の5月に敗血症で夭逝しています。

諏訪ノ平が疎開先になったのはまったくの偶然で、昭和16年(1941)のアメリカとの開戦前に、朝さんが実家の北海道空知郡滝川村(現滝川市)へ家族で里帰りした帰路、青森から上野に向かう汽車の中で、前に座っていた相内の沼畑さんという男性と話を交わしたのがきっかけでした。

その後、りんごを送ってもらうなど交際していた縁で、昭和20年3月10日の東京大空襲のあったすぐ後、疎開しました。上野から3日間の疎開行は、『窓ぎわのトットちゃん』で「二人ぼっちの夜行列車」「おしっこがしたい」「お母さま!」「キリストの伝説」と矢継ぎ早に展開し、そのテンポとビビッドな表現は、まさにトットちゃんのみまもる目躍如とした前奏曲になっています。

リンゴ小屋のリフォーム

諏訪ノ平に着いてからの朝さんは、「持ち前の魔法使いぶりを発揮した」とあるように、仮住まいのリンゴ小屋を大変身させました。隙間だらけの板張りの壁を見て「窓からも天井からも、太陽の光が射してくるなんて素敵ね」などと言いながら、リンゴ箱を逆さにしてゴブラン織りの布をかぶせ、ロココ風のおしゃれな椅子にしたとあります。

3



この線路の東側、馬淵川沿いのリンゴ畑にあったリンゴ小屋は、相内の沼畑さんが紹介してくれました。その後、リンゴ小屋が大雨で大氾濫した川の水を被った時には、諏訪ノ平駅前で製材業を営む西舘家が、2番目の住まいとして駅前の長屋を世話してくれました。

そこは西舘製材所の従業員や大工さんも入っていた長屋で、幸い一番端の部屋が空いていました。事情が分かっていた大家の西舘さんは、家賃の代わりに「休みつ」といって、苗代・田植・稲刈りの忙しい時に何度かお手伝いをしていただくことになりました。さらに幸いしたのは、長屋に隣接して民間の青

物市場があったことです。

はちめんろつび

八面六臂の朝さん

諏訪ノ平駅前の青物市場は、太平洋戦争前に旧平良崎村の農業団体の人たちが西舘製材所の土地を借り、古材を持ち寄って建てたもので、朝さんの活躍は、この青物市場を舞台に始まります。

トットちゃんが「ママの環境適応力には、いま思い出しても本当に感心させられる」と述懐しているように、朝さんのリンゴ小屋時代には、いつの間にか「農協みたいところ」

4





5

三戸高女時代のトットちゃん

さて、子どもたちの学校のことですが、次男の紀明さんは小学校へ、トットちゃんは三戸町立高等女学校（現青森県立三戸高等学校）に通うことになりました。リンゴ小屋から諏訪ノ平駅まで

その後、定食屋・行商人として手腕を発揮し、その収入は焼失した東京北千束の住まいを再建する費用になるほどでした。

に勤めるようになり、夜は近所の人たちの服を縫う内職をし、にわか仕立ての「かつぎ屋さん」になって、諏訪ノ平で穫れた果菜類を八戸港で新鮮な魚と物々交換、不足気味のタンパク質を確保しました。

さらに戦争が終わってすぐの長屋時代になると、賑わいを取り戻した青物市場に隣接する好条件を利用して、長屋土間部分を定食屋にしました。これはあつという間に大人気店になったということです。八戸港のみならず、陸奥湊駅まで買い出しに行く時にはトットちゃんも手伝いました。そこでは情報源となった「イサバのカッチャ」（浜の行商のおばさん）との交流もあったようです。



6

歩いて20分、そこから車で三戸駅までの1区間5分、学校まで歩いて30分、合計約1時間の通学でした。

疎開して来てすぐに、黒柳家は先に南部町に疎開していた櫻井家と知り合うことになりました。東京で洋裁店に勤めていた芳雄さん・はなさん夫妻は、はなさんの実家の旧南部町で長女の艶子さん（6歳）と次女的美智子さん（4歳）と一緒に避難生活をしていました。その年の4月に艶子さんは小学校へ入学。そこにトットちゃんの弟の紀明さんがいたのがきっかけか、「東京弁」で通じ合う朝さん・はなさんは意気投合するおしゃべり仲間になったとか。



7

櫻井家のその後は、ご主人の芳雄さんが昭和43年（1968）、相内の国道沿いに「さくらドライブイン」を開業。長女の艶子さんが跡を継いでいましたが、令和7年（2025）12月に店を閉じました。

その前の10月、艶子さん（85歳）と3女の留美子さん（78歳）に、トットちゃんやその後の黒柳家との交流を伺いました。

三戸高女時代のトットちゃんはやはり

- 5 諏訪ノ平駅付近の長屋跡と西館隆さん（令和7年10月2日）
- 6 長屋跡に隣接する青物市場跡／鉄骨の季節開設市場になったのは、
西館隆さんが昭和39年に諏訪ノ平に来て代替わりした以降で、今は駐車スペースになっている（令和7年10月2日）
- 7 諏訪ノ平駅と三戸駅間の途中にある鉄橋
- 8 黒柳家の思い出を語る櫻井艶子さん（左）と妹で3女の留美子さん（令和7年10月2日／「さくらドライブイン」で）
- 9 「徹子の部屋」収録スタジオで黒柳徹子さんと工藤町長（令和6年12月17日）

8



トットちゃん、例えば「トット、線路にぶら下がる」では、おてんばな冒険話が書かれています。

下校して諏訪ノ平駅に着いたトットちゃんは、友達との別れ際、大きく手を振って大切な定期券を川に落としてしまいました。翌日から約5キロの道のりを歩くことになったトットちゃんは、一計を案じて線路を往復することにしました。もちろん汽車の時刻表を頭に入れ、危険回避もシミュレーションしながらでしたが、その日は帰路の諏訪ノ平駅までもう少しの鉄橋で、思い掛けず臨時の貨物列車に遭遇したのです。

「黒柳徹子記念ルーム」を開設

令和9年（2027）4月のオープンを目指し、南部町役場南部支所に「黒柳徹子記念ルーム」を整備中です。

きっかけは、令和3年（2021）6月10日付の「八戸爺」と名乗る工藤町長宛の

鉄橋の下は馬淵川の深い急流、絶体絶命のピンチを線路の下にもぐり込み、両手で枕木にぶら下がって汽車が頭の上を通過するのをやり過ごし、やっとのことで這い上がった九死に一生を得たのです。



9

匿名葉書。そこには「どうか南部町に黒柳徹子記念館の設立を早急に進めてください。きっと日本の宝になりますように」とありました。背中を押してもらった町長は、令和6年（2024）12月17日にテレビ朝日系「徹子の部屋」の収録スタジオを訪問して趣旨を説明し、開設の承諾を得ました。

記念ルームの基本的な考え方は、「黒柳徹子さんの疎開経験と現在の平和活動から、南部町のこどもたちに平和の大切さを教え、地域への愛着と未来への希望を育むことを目指します」というものです。

●公認心理師 小鹿和男さん

学校と子どもをつなぐ「翻訳者」

●学校の外から子どもたちを支える

キャンピングカーで青森県南や岩手県北を訪ね、ゲーム依存や不登校のつらさを抱える子ども、保護者、大人の心の悩みに寄り添う公認心理師・小鹿和男さん。

36年間、小学校教諭として子どもたちと向き合う中で、小鹿さんが強く感じたのは、「人との関わりが子どもを少しずつ成長させる」ということでした。特に約20年間携わった特別支援教育では、家庭や地域と力を合わせることで、大きく成長していく姿を数多く見てきました。

一方で、学校へ行けなくなった子どもたちには、その支援が届きません。だからこそ、小鹿さんは学校の外へ出ました。定年退職後に公認心理師の資格を取得し、自ら子どもたちのもとへ足を運ぶ活動を始めたのです。「学校へ戻すことが目的ではありません。けれど、学校は子どもたちが最初に社会と出会う場所。学校でしか学べないこともあると思います」と小鹿さん。

そのため、子どもが抱える声にならない

思いを学校へ伝えます。同時に、学校や先生方の思いを保護者へ伝えます。それぞれの立場を知るからこそできる「翻訳」が、小鹿さんの役割です。

「人は、人との関わりの中で傷つくことがあります。しかし、人との関わりの中でしか得られない喜びや成長もあります」。そう信じるからこそ、小鹿さんは今日も子どもたちのもとへ向かいます。

●自然の中で心がほぐれる瞬間

カウンセリングでは「個室で対話する」というイメージが強いですが、小鹿さんはキャンピングカーで子どもたちを迎えに行き、南部町の豊かな自然へ出かけます。ハイキングやさくらんぼ狩り、料理を楽しみながら過ごす時間は、子どもたちが少しずつ人との関わりを取り戻していく大切な機会です。

「焼き肉を配ってみる？」：地域のイベン



上——キャンピングカーと小鹿さん
下——穏やかな笑顔で話を聞く小鹿さん

プロフィール

こしか・かずお

蓬田村出身、南部町埴渡在住。三八地域で小学校教員を務め、令和元年（2019）定年退職後、公認心理師の資格を取得。「こころの相談室 こじか」を立ち上げ、トレッドマークのキャンピングカーを駆使して心の悩みに寄り添う。



トなどで小さな役割を任されることで、子どもたちは自然に周囲の人と関わり始めます。無理に言葉を引き出すのではなく、一人ひとりのペースを大切にしながら、少しずつ社会との接点を増やしていきます。

「自然はセラピストなんです」

風や木々、季節の移ろいに包まれ、人と自然の中で過ごす時間が、子どもたちの心をゆつくりとほぐします。

● 作家 三浦恭子さん

表現で人の背中をそつと押す

● 悲しみの先に見つけた表現

三浦恭子さんは、小さい頃から絵を描くことが大好き。20歳で上京すると、日本画を習い、パソコンによる創作に出会いました。33歳で帰郷後はガラス工芸作家として活動し、カルチャー講座で指導をしたことも。

創作活動の転機となったのは平成23年（2011）の東日本大震災後、母を亡くしたことでした。三浦さんは母が最期を迎えるまでの数カ月間、仕事を辞めて付き添いました。母を亡くし、大きな喪失感を抱えながら少しずつ動き始めようとした時、ふと思いついたのがパソコンソフトを使った創作のことでした。

再び描き始めた作品は、やがて動画や絵本へと形を変えていきます。令和2年（2020）には電子書籍を出版し、翌年には初めて紙の絵本を刊行しました。

淋しさと悲しみを吸って大きくなるドラゴンや、意地悪でいたずら好きな女神。三浦さんの作品には、少し風変わりなキャラクターが登場します。「筋縄ではいかない物語の根底にあるのは、自身が落ち込んだ時に

感じた思いや、そこから少しずつ前を向いていった経験です。

「落ち込んだ時、自分はどうやって回復していったんだろう」

自分自身の回復の道のりを描いた物語は、今度は作品を手にとった誰かの心へと届いていきます。

● 絵で結ぶ人と人の出会い

現在は日本画制作に再び向き合い、創作仲間が集うグループ展を不定期開催。その名も「絵結び展」といいます。

「絵を描く人同士や、作品を創る人と見る人を絵が結びつけてくれたらいいな」と思っ
て、『この人とこの人を出会わせたら、どんなことが生まれるんだろう』って考えるのが好きなんです」と三浦さん。実際に、三浦さんの一言に背中を押され、創作活動やイベント出展に踏み出した人もいます。

「剣吉諏訪神社神楽」や豊作祈願の「え



プロフィール

みうら・やすこ

旧名川町出身、南部町剣吉在住。
20歳で東京に出て33歳でUターン。絵本・イラスト制作のほかガラス工芸や絵画など、さまざまな創作活動をしている。絵本には『ポチョンのおしっこ』『いたずら神のおくりもの』『青いドラゴンになった女の子』などがある。

んぶり」などが受け継がれ、「南部手踊り」発祥地として知られる剣吉地区で育った三浦さんは、南部町の伝統芸能や文化にも強い関心を寄せます。

一枚の絵、一冊の絵本、一曲の舞。一瞬の出会いが誰かの心を動かし、新たな出会いや挑戦につながることもある。そんな表現の力を深く感じながら、三浦さんは今日も何かを創っています。



上——著作の絵本を手にする三浦さん
下——愛用のパソコンと『青いドラゴンになった女の子』のメイユイの絵

●理容師・織物作家 古田麗子さん

暮らしの知恵を、次の世代へ

●「毛」に導かれて
髪を整え、糸を紡ぐ

「気に入った布を使ってみよう」

古田麗子さんが洋裁を始めたのは、子育ての真っただ中。働きながら4人の子どもを育てる中で体調を崩し、自分のための時間を持つようになったのがきっかけでした。

布を探すうちに、織りムラも個性と捉える自由な手織り「さをり織り」と出会います。自分で布が織れると知ると、今度は糸に興味湧きます。さらに糸を調べるうちに、糸は紡げると知ります。そして羊毛羊そのものへ。

「気づいたら、ここまで来ていました」

10年余り前に始まった手仕事は、自宅での羊飼育へとつながりました。「羊毛の毛刈り用の大きなバリカンを見た時、『使ってみよう！』って血が騒いじゃって」と古田さん。羊毛を刈り、洗い、糸に紡ぎ、織って、布へと変える。素材をたどるように歩んできた道のりを振り返り、古田さんは笑います。

理容師として31年。青い森鉄道三戸駅近くのヘアーサロンで両親と共に顧客を迎えな

がら、近年は訪問理容美容グループ「つばめ」のメンバーとしても活動。病気など外出が難しい人のもとを訪れ、理美容サービスを提供しています。

「結局、仕事も毛に関わる仕事。毛に導かれた人生なんだなと思いました」

●手仕事がつなぐ暮らしの記憶

現在は理容師業の一方、明治時代から続く清水屋旅館の一間を借りて機織りワークショップを開いています。参加者の中には、かつて機織りをしていた高齢者もいます。布を作る工程のうち、「織る」作業は最後の2割ほど。

「織る前の準備は難しくなりましたが、久しぶりに織れて嬉しい」

そんな声を聞いたたび、地域に息づく手仕事文化の豊かさを感じます。冬の農閑期に手を動かし、家族のために衣類を作っていた



上——実家のヘアーサロンで働く古田さん
下——機織りをする古田さん（清水屋旅館の一室で）



プロフィール

ふるた・れいこ
旧南部町出身、南部町相内在住。東京で理容師として勤務後にUターン。理容師として働きながら、訪問理容美容グループ「つばめ」のメンバーとしても活動。機織り機を使った織物作家でもある。

記憶を語る女性たちとの出会いは、古田さん自身にとっても地域を再発見する時間です。

「だから新しいことを始めているつもりはなくて。昔からあった暮らしの知恵を見つめ直しているだけなんですよね」

ワークショップでは小学生が機織りに挑戦することもあったとか。古田さんの手を通して、南部町の暮らしの記憶は次の世代へと受け継がれています。

名久井農業高校の魅力化 大自然とまち全体が学びのフィールド

●ワークシヨップとは、もともとは共同作業場や工房を表わす言葉ですが、現在、よく使われているのは双方向性を意図したグループによる学びと創造の方法を指すようです。ここでは、6名の出席者による「フランクな語り場」の意味で用いました。

青森県立名久井農業高校は町民から「南部町立 名久井農業高校」や「農学校」と呼ばれ、地元では唯一の高校として親しまれてきました。

実際、令和2年（2020）8月には町・町議会・PTA・後援会・同窓会が連携して名久井農業高校の「応援団体」を設立、

令和5年（2023）度からは生徒の全国募集を導入することを決定しました。

また、下宿費用の助成ほか、数々の生活支援、研究・実験活動を支援する

「名久井農業高等学校みらい人材育成事業」の継続、そのほか高校魅力化コーディネーターを委嘱し、「なんぶ留学」関係者交流会の開催も行っています。

出席者

根市大樹（名久井農業高校魅力化コーディネーター／学校

運営協議会委員長／NPO法人「学びどき」理事長）

田多奈央（名久井農業高校2年／生徒会長）

多田聡大（同／地域みらい留学生代表）

出町孔汰（同／農業クラブ会長）

高森満雄（名久井農業高校教諭／農場長）

佐藤広大（同／農業クラブ主任）

開催日 令和8年（2026）3月16日（月）

場所 名久井農業高校会議室

「名農」を選んだ理由と魅力

根市——名久井農業高校魅力化コーディネーターとして、このワークシヨップ全体をまとめていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

僕自身、この名久井農業高校のことがすごく大好きな人間の一人として、まず皆さんに聞きたいのは、名久井農業高校って皆さんにとつてどういうところかなということです。

田多——やはり農業高校って、他の高校では学べないことを学べるんじゃないかな。



座学のほかに実習や地域での活動も多いので、頭だけじゃなく、体全体の色々なところから知識や情報が入ってくる場所だと思えます。

多田——地域の人と交流していくのが名久井農業高校の一番の強みという魅力です。地域の人とのつながりによって僕たちの活動が成り立っているのではないかと考えています。

出町——最初は目的があんまりはつきりしていなかったとしても、これからやりたいって思えることがたくさん見つかる場所だと思う。学科では農業と工業、それぞれ学べるという機会があるので、その中で自分の強みを探ることができたり、課題研究に没頭したりもできる、いい学校だなと思います。

根市——出町君はこれから1年間、農業クラブの会長として活動するわけだけど、やりたいこととか挑戦してみたいことってというのはあるの？

出町——僕ら環境研究班メンバーが、さまざまなコンテストや大会で研究成果を発表し、積極的に自分たちの活動や学校のことを広めていきたいというのが一つ。それと農業クラブ以外の生徒の皆さんも、より名農の魅力を発信できるようになればなと思っています。

根市——多田君は千葉から「地域みらい留学」の制度を活用して南部町に来ているわけだけど、なんでこの高校を選んだの？



根市大樹さん

ワークショップ 名久井農業高校の魅力化

大自然とまち全体が学びのフィールド



田多奈央さん

多田——中学校の頃から農業を学びたいという目標を持っていたから、

というのが一番大きいですね。地元の千葉県の中で探したけど、農業高校

というものがあまりなくて、通うにしても、

家から遠かったんです。じゃあもう、どこか県外に出ていった方が、自分が成長できるんじゃないかなと。

根市——田多さんは、なぜ名農に？

田多——中学校の時は、まだ自分が何をしたいのか、何になりたいのかっていうのが定まっていなくて、色々な高校の資料を見ましたが、農業高校は普通高校と違って個性的というか、テーマが定まっていて、専門性が高いじゃないですか。そこに引かれました。

名農らしさと楽しい授業

根市——では、高森先生と佐藤先生、先生方から見た「名農らしさ」とは？

佐藤——やはり地域とのつながりがすごく強いことが特色じゃないでしょうか。地域の方が「農学校」っていう愛称で呼ん

で、地域に欠かせない存在として温かい目で見守ってくださる、この距離感は、他の高校では体験したことがなかったです。

生徒は生徒で、資格取得などに惜しみなく努力しています。「アグリマイスター顕彰」という顕彰制度がありまして、それは、在学中に取り組んだ活動や検定、資格、コンクールなどでの成績を点数化して評価する制度なんです。合計得点に応じて「プラチナ」「ゴールド」「シルバー」の称号が認証されるのですが、令和7年（2025）は認証率が90パーセントを超え、生徒たちの努力がよく見られました。

根市——高森先生から見えてどうですか？

高森——そうですね。当校は、生徒がみんな素直だと思います。小規模校だからこそ、先生方も細やかに声かけができるし、先生のサポートを受けながら生徒もグループ活動がしやすい、そういった環境が整っているのかなと思いますね。

根市——地域住民の一人でもある僕から見ても、先生方のお話はよく分かります。校内外どこにいても、先生と生徒の仲がいいなと思って見えているんですよ。生徒は先生を恩師として敬っている一方、友達のような感覚もあり、ちょっと家族にも近い関係性だという気がします。

佐藤——きちんと反応が返ってくるので、授業も農業クラブの活動も、工夫のしがいがあります。

根市——授業はどうですか？ 出町君。

出町——そうですね。授業は間違ひなく楽しいです。先生との距離感がだいぶ近いなっ
て思いますし、それは少人数だからだけでは
ない気がしますね。

多田——普通高校にはない教科が多いの
は、ちよつと大変だなとは思うんですけど、
新しいものをたくさん知れるという面では、
すごくおもしろいなっと思っています。

根市——外に出る授業もかなりある？

出町——一番楽しかったのは野菜作りです。
今回は水耕栽培をメインでやってきたんです
けど、僕も将来は水耕栽培ができればな
思っているんで、実践的に学べて、得るもの
が大きかったです。

根市——多田君はどうですか？ たしか野
菜を使って漬物を作っていたよね？

多田——京都への修学旅行で漬物作りを体
験しました。あと、寮の前で枝豆も栽培し
ましたね。

根市——どこに行っても何か作っている
(笑)。まさに学んだことを実践していますね。

地域活動と名農の存在意義

根市——では、地域活動でみんなが印象に
残っていることを教えてもらいたいなと。

出町——1年生の時に農作業支援活動が
あって、その中で地域の農家さんにお手伝い
に行ったことが印象に残っています。お手伝

多田聡大さん



いする中で地域の農家さ
んのリアルな声が聞けた
し、実地練習ができる貴
重な機会でもありまし
た。

根市——具体的にどん
な声を聞きましたか？

出町——やはり人手不
足です。「ぜひ若い人に来てほしい」と話さ
れていました。

根市——私も地域の農家の一人ですが、同
感ですね。名農の生徒さんたちには、いず
れ地域の農業をリードしていただけたら嬉
しいです。では、田多さんはどうですか？

田多——毎年5月に野菜苗の販売会、10月
末から11月初め頃に農産物の販売会がある
のですが、そういう学校行事の時に、南部
町内外の方々へ接客をしたのが刺激になり
ました。お客様1人に対して生徒1人がつい
て、1対1でお話するので、その時に農業
に限らず、社会の色々なお話が聞けました。

「頑張っているね」とほめ
てくださる方も多くて、
嬉しいなっと思っています。

根市——名農祭と併せ
て行われる農産物即売
会は特に人気で、たくさ
んのお客様が来ますよ
ね。名農祭の2日間、
例年合わせて千人近く

が来場するとか。多田君は地域活動につい
てはどうか？

多田——地区分会の活動が一番の思い出で
す。

根市——地区分会では生徒さんが、それぞ
れ住んでいる地域ごとに分かれてボランティ
ア活動をするんだよね。多田君のチームは
何をしたの？

多田——高校近くにある「チェリーこども
園」の子どもたちと一緒に花壇の整備をし
ました。子どもたちがとても頑張ってくれて、
かわいかったですね。

根市——日頃から高校に子どもたちがお散
歩に来たり、農業体験に来たりして、南
部町や八戸市のこども園との交流があるの
も、名農の特色と言えますね。食育の観点
から見ても、地域の基幹産業である農業を
知ってもらう意味でも、名農の存在意義は
大きいと思います。ほかに地域とのつながり
ということと言うと、お祭りに参加していま
すよね。

高森——全校で「名川秋まつり」に参加し
ています。トラックの荷台にダイコンなどの
農産物を積み込んで行き、会場に来たお客
様に無料配布します。おかげさまで毎年た
いへん多くのお客様に喜ばれていますね。

根市——ダイコンの本数でいうと、どのくら
い？

高森——毎年千本程度ですね。9月にそ
の本数を揃えるにはなかなか大変なんです

出町孔汰さん



よ。新鮮な状態で配布するために前日に収穫し、洗って準備するのですが、生徒が大活躍してくれます。

課題研究と環境問題

根市——あと思いつくものというところ、課題研究ですか。2・3年生の生徒が授業の中でグループごとに研究活動を行っていて、コンテストなどでの受賞歴も華々しいですね。

佐藤——そうですね。地域の特産物や自然環境をテーマにした研究を行うチームもあります。コロナ禍で地域との関わりが縮小気味になっていた時期もあったのですが、今また少しずつ広がってきています。毎年12月に、研究成果の披露の場としてプロジェクト実績発表会を開いておりまして、令和7年（2025）度に関して言えば、外部の方にも見ていただける形にしたところ、八戸市内の中学生が発表を聞きに来てくれたんですよ。嬉しい驚きでした。

根市——課題研究は、生徒たち自らが研究テーマを選ぶんですよね。ほかの高校ではなかなかできない経験だと思いますが、先生方から見て、課題研究の醍醐味（だいごみ）はどういうところですか？

佐藤——そうですね。生徒たちが自分のアイデアを話せるようになる、積極性を持つというところですね。今回、全国ユース環境活動発表大会で環境大臣賞を受賞した



佐藤広大先生

ワークショップ 名久井農業高校の魅力化

大自然とまち全体が学びのフィールド



高森満雄先生

だと思っています。

根市——課題研究は、生徒の主体性を引き出す場になっているんですね。

高森——そうですね。課題を見つけて、それについてグループで意見を出し合いながら解決していくというプロセスを学んでいるので。成功と失敗を繰り返して二つのものが出ていくという過程こそが学びですし、その成果を評価されるころまでやるというのが、さらに一段階、学びを深めていると思っています。

佐藤——外部の視点が入ると、緊張感が全然違うんですね。だからこそ生徒たちは

すごく伸びる。高校生の時期に、専門家の方が自分たちの研究に対してコメントしてくれるという経験を積めるのは、大きな財産になっているのでは。

根市——せっかくなので、生徒の皆さんに、そ

れぞれの課題研究について話してもらいます。

田多——私たち野菜班でやっているのは「バイオステイミュラント」という農業資材を使った作物の栽培方法についての研究です。バイオステイミュラントは、一般的な肥料とも農薬とも違って、植物や土壌に作用して、植物の本来持っている機能を最大限に引き出そうとするものなんです。

例えば地球温暖化で起きている高温や乾燥なんかには耐えられる作物を作れないか、というようなことなんですけど。半面、バイオステイミュラントの正規品は、値段が高いのが難点なんです。でも、身近な素材から作れる代用品もあって、卵の殻と酢酸を一緒にして酢酸カルシウムを作って、それで野菜を栽培するという風な感じでやっています。

多田——僕たち農村文化班は、地域の里山、農村地帯をどう守るか、そして今後未来の世代にどう伝えるかということを研究しています。具体的には、里山の資源を活用した商品作りですね。例えば、南部せんべいに木の実を混ぜたり、里山の植物を使ってクラフトコーラを作ったり。色々なアイデアを試しながら、将来につなげられたらと思っています。

出町——僕は環境システム科の中で環境研究班というところに所属していて、さまざまな環境問題について考えています。高校生

らしい視点で、さらに、自然に触れ合っている独自の視点で、環境問題に対する対策や解決法を探究するというのが僕らのコンセプトです。

根市——地域から視野を広げて、世界の環境問題に着目しているんだね。

出町——直近だと、国連が定めた「世界食料デー」に関して、唯一、高校生が活動に取り組んでいる団体として認められました。

根市——実際にどういう分野に興味を持ち、どういう取り組みをしていますか？

出町——一番興味があるのが気候変動です。中でも特に気温上昇の対策として、新しい水害防止法の研究を行っています。

自分たちの将来像

根市——ほかにもさまざまな学外での活動が名久井農業高校にはあって、令和7年度にも表彰を受けているものが多いですが、目立つものと言うと、佐藤先生が話された環境システム科の栽培環境班が大阪・関西万博で除草剤を泡で散布する研究を発表して、最優秀賞に選ばれたこと。出町君もこのチームの一員でしたよね。

佐藤——大阪・関西万博で開かれた「Q-1（キューワン）U-18が未来を変える研究発表SHOW2025年大会」ですね。文部科学大臣賞にあたる「最優秀イノベーター」をいただきました。



（根市さんと生徒たち
（母水耕栽培ハウス内）

高森——あとは令和8年（2026）の第13回「高校生ビジネスプラン・グランプリ」で審査員特別賞を受賞、ビジネスモデルになりました。さらに先ほども話題に出た「全国ユース環境活動発表大会」で最優秀賞にあたる環境大臣賞を受賞。そのことで南部町から「善行表彰」も受けましたね。

根市——では、生徒の皆さんに最後に聞き

たいのですが、実際自分たちはこういう人になりたい、こういう仕事をしてみたいっていうのはありますか？

出町——僕は南部町で就農を目指したいなと思っています。僕の家は、祖父の代あたりまでは農家だったんですけど、ちょっと色々あって農家をしばらく辞めているので、今も残っている土地を生かして農業を始めたいなと。最初は自分でやれる範囲から、果樹や野菜の栽培をしていけたらと考えています。

多田——これからの社会では、農業だけでなく色々なことを多角的にやるのがいいんじゃないかと思っていて、自分なりに考えていることはあるんですが。旅が好きなので、旅も一つの軸にしたいな、とか色々々々。

根市——田多さんは出身は南部町だっけ？

田多——八戸市です。中学校の時はあまり勉強をやつてこなかったのですが、でもここに入ってから専門科目とかをやつていくうちに、学ぶことの楽しさを知ることができました。「学べる人」になりたいっていうか、経験を活かせる人になりたいっていう思いはあります。

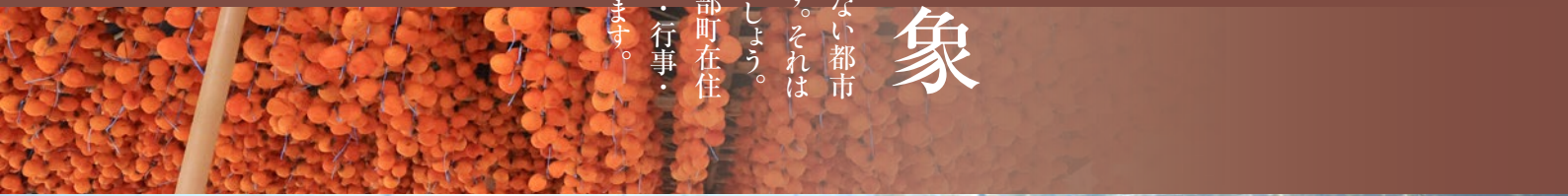
根市——3人の皆さんの考えはよく分かりました。いよいよ皆さんは来月から3年生になるわけで、進路ももちろん考えなきゃいけないんだけど、これからの1年間で色々チャレンジしてみてください。今日はありがとうございました。

一同——ありがとうございます。

南部の印象

▼ある景観論の中に、「文化で結びつく仕掛けを持たない都市は、いずれ人が寄りつかなくなる」という言葉があります。それは文化が、その都市（場所）の印象を優れて喚起するからでしょう。

▼文化にもさまざまな分野がありますが、ここでは南部町在住の写真家と歌人の作品による共創を通じて、四季の風景・行事・作業景の3つに分けて「南部の印象」を伝えたいと思います。



上 干し柿——中館 克彦

下 稲刈り後のハセ掛け——西館 圭一



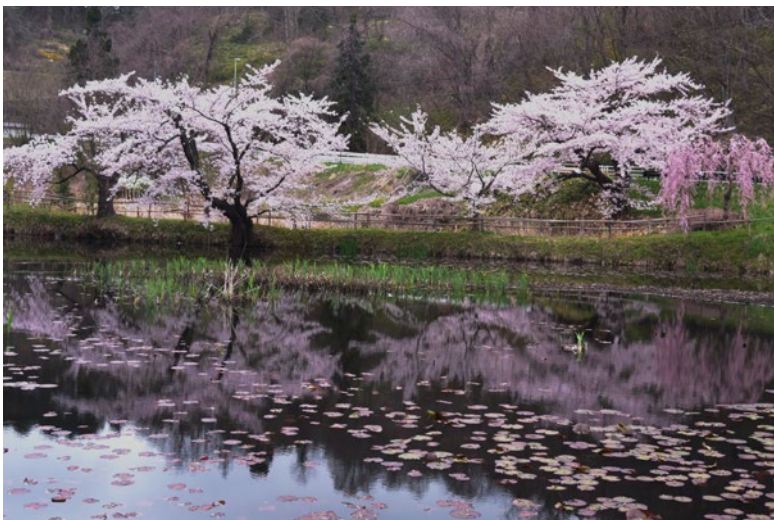
四季の風景



初冬の名久井岳
写真——西館 圭一

朝靄で白きマフラーするごとく
名久井岳見ゆ墨絵のごとし

短歌——木村 ひな子



剣吉堤の桜
写真——有谷 賢司

天へ咲き水辺にはらり揺蕩へる
桜の命うるはしきかな

短歌——奥 ムツ子



朝の秋陽
写真——西館 圭一

秋の陽の差し込む朝の水溜り
昨夜（よべ）の落葉を遊ばせる風

短歌——安ヶ平 千代

行事



えんぶり

写真——西塚 正雄

頬紅の愛らしき子ら春を呼ぶ
大黒舞に拍手喝采

短歌——石塚 剛子



虎舞

写真——西塚 正雄

虎舞の怖さに「明日は来ないで」と
LINEを願う涙目の孫

短歌——相馬 幸子



法光寺ライトアップ

写真——西塚 正雄

時頼のゆかりの寺を仰ぐ時
ライトアップに悠久の影

短歌——山下 幸枝

作業景



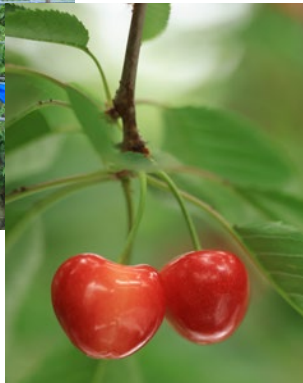
馬淵川の鮭漁
写真——有谷 賢司

しぶきあげ築場に群るる銀の鮭
「まだ来るぞ」とふ網引く声よ

短歌——奥 ムツ子



サクランボの雨除け掛け
写真——中館 克彦



ジュノハート
写真——中館 克彦

サクランボ作業の汗に「休みっこ」
掛けくる声に笑みがこぼるる

短歌——山下 幸枝

実りゆく小さな恋人思はせて
可憐な赤きジュノハートかな

短歌——山下 幸枝



虎渡町内会の花壇
写真——西塚 博康

植ゑ終へて腰に手をやり見渡せば
「いいねいいね」と真つすぐな畝

短歌——木村 ひな子

国史跡「聖寿寺館跡」

受け継がれた戦国大名南部氏の遺産

令和9年（2027）4月オープン予定の「南部町歴史ミュージアム」。
ここでは、北東北最大の戦国大名であった南部氏の歴史を紐解くとともに、
国史跡聖寿寺館跡の出土品など、時を越えて受け継がれてきた
数多くの貴重な文化財を展示する予定です。

一 南部氏の系譜

南部氏は清和源氏に連なる一族です。初代南部光行は現在の山梨県（甲斐国南部郷）を本拠地とし、南部を名乗りました。

江戸時代に編さんされた『寛永諸家系図伝』には初代光行から28代重直までの当主が記されていますが、一部創作が認められるため、中には実在を立証できない当主も存在します。初代南部光行の当町への入部伝説もこの時に形作られたものと考えられます。しかし、近年は研究が進み、三戸南部氏は南北朝時代にこの地方を管轄した南部師行の系統ではないかと考えられるようになりました①。

二 聖寿寺館の当時の呼び名

火災によって文献が失われてしまった聖寿寺館の当時の呼び名はこれまで明らかではありませんでした。しかし、近年の調査・研究で、聖寿寺館中心建物跡の真下から出土していた

硯の底に刻まれていた「堀内」こそが当時の聖寿寺館の呼称であったと考えられるようになりました②。

京都相国寺管轄下の臨済宗僧侶で東北地方に派遣された幕府使節僧とみられる円福が八戸政経に宛てた、長禄4年（1460）頃の書状「円福書状」には、三戸南部氏当主とみられる人物の呼称として「堀内」が登場します。しかし、その名称が聖寿寺館出土の硯に線刻されていたことから、聖寿寺館そのものが「堀内」と呼ばれていた可能性が高く、硯は「堀内」に備えられた備品であったと考えられます。

三 調査が進む聖寿寺館

天文8年（1539）、24代南部晴政は上洛し、馬を献上、12代將軍足利義晴から「晴」の二字を賜ります。高級馬「戸立ちの馬」は都で珍重されており、南部氏は定期的に都に馬を献上していたものと考えられます。そのためか、三戸南部氏は室町・戦国期で都から最

も遠い地を支配していた領主であったにもかかわらず、発掘調査では都との強い結びつきと、当時の最先端技術の導入を示す発見が相次ぎました。

令和5年（2023）の調査では深さ7.4メートルに及ぶ巨大な堀跡の一部が姿を現しました③。堀底は2重になっており、敵を寄せ付けない工夫が施されていました。

この巨大な直線の堀で囲まれた空間は約300メートル×約180メートルの規模を有しますが、この「四角い形の館」は室町幕府の足利將軍邸（京都）を頂点とする権威の象徴でもありました④。

居館規模としては、甲斐国の守護大名武田氏や六カ国の守護となった大内氏、九州の守護大名大友氏の居館は、どれも約200メートル四方ですので、聖寿寺館がこれらにまったく引けを取らない規模だったことがうかがえます。

また、聖寿寺館跡内部からは中央とのつながりを想起させるものも出土しました。その一

つが東日本で唯一の発見となった真鍮生産の痕跡です⑤。

現在、国立科学博物館（東京都台東区）と共同で聖寿寺館跡の貴重な出土品の調査・分析を進めています。分析により金属加工に用いた坩堝（くわく）付着の元素が特定され、金・銀・銅・真鍮などの多様な種類の金属を使って製品が加工されていたことが明らかとなりました。

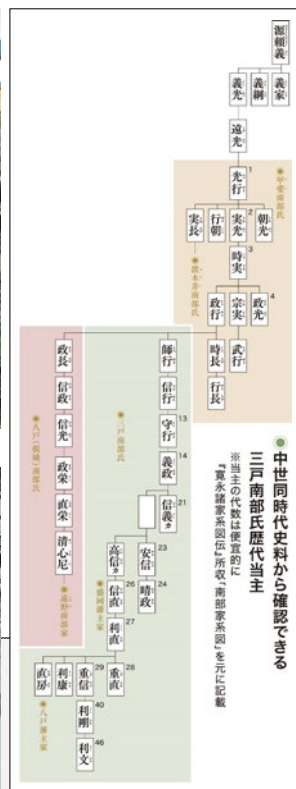
特に聖寿寺館における真鍮生産の事実は大きな発見となりました。



③—— 発掘された堀跡



④—— 冬の聖寿寺館跡

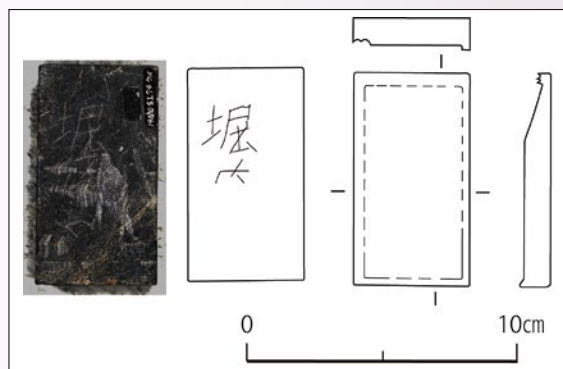


①—— 最新の研究成果に基づいた南部氏系図

⑦—— 聖寿寺館跡で出土した双六のサイコロとコマ



⑧—— 厩で双六を嗜む人々（『厩図屏風』東京国立博物館所蔵）



②—— 「堀内」と線刻された硯



⑤—— 東日本唯一の真鍮生産坩堝



⑥—— 『慕婦絵詞』（本願寺所蔵）と聖寿寺館跡出土の建具・調度品

真鍮は銅と亜鉛（あえん）の合金ですが、銅の融点が1085度であるのに対し、亜鉛の融点は419度、沸点は907度であるため、銅を溶かすために炉の温度を上げると、亜鉛は立ちどころに蒸発してしまいます。そのため、真鍮を作るのは難しく、非常に高度な技術が必要とされました。南部氏は金属生産のための専門職人集団を中央から呼び寄せていたのでしょう。

聖寿寺館の真鍮生産坩堝は16世紀前半の年代が考えられるため、美濃国守護土岐氏の鷺山仙道遺跡（岐阜県）に次ぎ国内2番目に古いことが確認されています。16世紀初頭に中国から伝来したばかりの真鍮生産技術を、南部氏が国内でもかなり早い段階に取り入れていたことが明らかとなり、三戸南部氏の最新



⑨——町文化財に指定された本三戸八幡宮本殿



⑩——史跡ガイド



⑫——布施和洋総括主査（南部町歴史ミュージアム内で）



⑪——聖寿寺館跡御城印

技術を求める積極性がうかがえます。

また、これまで謎に包まれていた城館中心部の御殿内部の様相についても明らかにしつつあります。襖の引手金具や屏風の金具など、建具や調度品についても金鍍金が施されていたことが明らかとなりました。掛軸や屏風、香炉などの座敷飾りが施された上、彩色画の襖絵で設えられた部屋が存在が想定され、南部氏のゴージャスな生活空間がうかがわれます。『慕婦絵詞』という西本願寺3世覚如上人の伝記を記した絵巻物は、当時の上流階級の室内空間を類推する上で参考となります。実際に聖寿寺館にもこのような都鄙りな空間が広がっていた可能性が高いと考えられます⑥。

また、近年の調査では、動物骨製のサイコロとコマも確認され、居館内部で囲碁や連歌と

ともに双六遊びも行われていたことが明らかとなりました⑦。

聖寿寺館とほぼ同時期に描かれた『厩図屏風』には、自慢の名馬が繋がれた観覧用の厩で、名馬を横目に双六や将棋、囲碁が執り行われている様子が描かれています。天下の名馬を多数携えていたと考えられる南部氏も、このような状況で双六遊びに興じていた可能性が想定されます⑧。

さらに、令和7年（2025）には山形大学と町との調査で三戸南部氏の氏神である本

三戸八幡宮の本殿が南部氏関連では最古級となる江戸時代初頭（慶長期）の建築であることが明らかとなり、町文化財に指定されました⑨。

四―史跡ガイド

平成31年（2019）、町内外の有志によつて発足した「南部屋形聖寿寺館ガイドの会」。町では毎年、ガイド養成講座を開催し、現在は19名が活動していますが、令和7年（2025）には初となる中学生ガイドが誕生しました⑩。

※ガイド申込は要予約。

五―南部御城印プロジェクト

お城版の「御朱印」である「御城印」を連携して販売するこのプロジェクトは、国内でも最大級の御城印連携の取り組みです。南部氏ゆかりのお城が存在する市町村等が連携し、南部氏のお城をPRしていく企画です。現在は東北3県18城館で連携しています⑪。

※聖寿寺館跡御城印は史跡聖寿寺館跡案内所で販売（1枚300円）。

（南部町教育委員会社会教育課史跡対策室・布施和洋⑫）

町内会新事情

「町内会」は、戦時下の昭和15年（1940）以降に内務省訓令により、行政の下部組織として位置付けられました。戦後は、昭和27年（1952）の占領終結とともに復活し、現在に至っています。しかし、昨今は少子高齢化やデジタル社会の進展などにより、町内会活動への関心は全国的に薄れつつあります。その一方で、地域の高齢者福祉や、ゴミ出しトラブルなどの環境課題、防災・防犯対策など新たな問題が生まれており、共助の精神で結ばれた町内会の役割は、快適で住みよいまちづくりのために、ますます重要になっています。

ここでは、町内3地区の中から3町内会の沿革と活動状況、そして若い世代による新事情も併せて紹介します。



大黒舞い／えんぶりの祝福芸のひとつで、右手に打出の小槌、左手に扇を持ち、交互に振りながら舞う（剣吉えんぶり組／令和8年2月7日）



玉掛町内会

**馬淵川沿いの河岸段丘上にある
ひとかたまりの純農村地帯**



山裾に立地する玉掛の純農村地帯で、下ると前方に国道4号と馬淵川が走る。前方に見えるのは名久井岳（令和8年4月17日）



えんぶり烏帽子を被った玉掛えんぶり組の太夫たち（令和8年2月7日）



松の舞／囃子に合わせ右手に扇を持った舞い手の少年が、首を曲げるようにおおげさに扇を振って舞う姿が愛らしい（令和8年2月7日）

「玉掛」には玉掛と諏訪ノ平の2つの集落があり、行政区としては別々になっています。諏訪ノ平は駅を中心に町場を形成していますが、玉掛は馬淵川左岸の河岸段丘上に立地したひとかたまりの純農村地帯で、リンゴやブドウ、野菜などの集約農業が盛んです。玉掛の地名由来は、集落の約百メートル東外れの馬淵川が大きく湾曲する水中に、巫女の念珠をまといめぐらしたような「玉掛岩」があったからといわれます。これは湾曲部に大きく張り出した懸崖の礫岩層が崩れ、その中の黒色した玉砂利が水中で玲瓏たる石に見えたとも伝えられています。

玉掛町内会は、現在の中野弘美会長（68歳）が25代目とあって、明治時代の部落会を前身とする歴史があります。また、明治初年の「新撰陸奥国誌」に玉懸村家数58とありますが、現在の町内会は47世帯となっており、さほど人口の増減のない、農業を主とした安定した生活基盤を持つ集落といえるでしょう。

町内会の中心になってきたのが、村の開発祖神として古来から尊崇を集める玉掛神社です。実際、令和8年（2026）度の行事計画には、1月1日の初詣に始まり、3日は三日祭・えんぶり烏帽子揃い、2月初旬のえんぶり、22日春祈禱、9月1日玉掛神社例大祭、12月下旬合同年越し行事など、氏子活動をベースとしたイベントが多く、そのほかに定期総会や町内会・総代会同役員会、自主防災組織による避難予防訓練、町内清掃、町内会持山の林道草刈り・道普請があります。

また、今は青年部や婦人部、老人クラブはありませんが、子ども会は12、13人なが

**「えんぶり」に「春祈禱」
「神遊び」の伝統芸能が
地域をつなぐ**

ら毎年の節分祭・えんぶり・玉掛神社例大祭の神輿担ぎ・クリスマス会などで活発に活動し、世代間交流の場になっています。

「玉掛えんぶり組」は、南部地方えんぶり保存振興会に所属しており、「八戸えんぶり」として国の重要無形文化財に指定されています。えんぶりは古くは「えぶすり」とも言われ、五穀豊穡を祈願する予祝行事「田遊び」を起源とする神事芸能です。

神事は吉凶占いに学んだ「あてもの遊び」が、遠い昔から主流のひとつだったようですが、ここで言う「田遊び」とは神遊びのことで、



春祈禱／神社総代の中野篤榮さん宅で神楽を舞う（令和8年2月22日）



春祈禱の門付け／若夫婦と子どもたちの前で神楽を披露後、厄祓いで獅子頭に頭を噛んでもらう（令和8年2月22日）



門付けで笛を吹く中野弘美会長（令和8年2月22日）



町内会中堅の中野正弥さん（玉掛神社前で／令和8年2月22日）

体選手になつた変わり種でもあります。

遊びにはそもそも神々の舞踊、鎮魂するという意味があります。

令和8年2月7日の「南部町えんぶり」の日には、染抜き裾模様の大紋直衣に無地の長羽織を着て、えんぶり烏帽子（馬の頭をかたどった田の神の依代）を被った太夫もさることながら、祝福芸の恵比寿舞い・黒舞い・きのこ舞・松の舞を演じた子どもたちの晴れやかな姿が印象的でした。

それから半月後の2月22日、やはり民俗芸能の「春祈禱」が行われました。これは火伏せなど家内安全と、厄年を迎えた人々の厄祓いを行うものです。

芸態は赤い獅子頭姿の太夫と、獅子の幕（垂れ布）を後ろで操るマクトリの2名で舞われる獅子神楽系統の大神楽に属し、囃子は大小2張の太鼓、笛、手びら鉦が拍子を

取ります。

玉掛神社で出立式が行われ舞いを奉納した後、最初に神社総代の中野篤榮さん宅で「前歌」「七の段」から佳境の「狂い獅子」まで披露し、御神酒の振る舞いを受けてから集落内を門付けして歩きました。

皆顔なじみで、助け合いは当たり前

中野会長のほかにもうひとり、総代家8代目でもある中野正弥さん（50歳）に話を伺いました。正弥さんは父親が畑作以外に養鶏をしていたこともあり、農業とは別にブロイラー飼育の経営もしています。42歳頃に銃砲免許を取得し、町の猟友会に所属しています。クレー射撃協会にも所属し国

玉掛町内会の特色は、小規模集落であるだけに、集落の隅々まで目が行き届き、皆顔なじみで助け合いは当たり前であること、常に情報を共有しているのすぐれに共通認識を得られ、組織分掌も必要ないこと、後継者に関しては、豊かな農業経営で、農地も栽培技術も承継されていくことを期待している、力強い言葉で語ってくれました。



桜本町町内会

町内会の基点「剣吉駅」と活動の概要

桜本町公民館が青い森鉄道剣吉駅の脇にあるように、桜本町町内会の基点は剣吉駅にあります。令和8年（2026）5月31日には町内奉仕作業で、駅に隣接する空き地の草刈り・花壇整備と、駅周辺の町内クリーンアップ作戦に20名ほどの児童と、親たちが参加しました。

木村喜代治会長（72歳）によれば、この数日前や10月にも駅ホームの草刈りがあり、さらに東の住宅地と西の商店街をつなぐ駅跨線橋の「あじさい通路」は、毎週金曜日から朝昼2回、8名で清掃活動をしており、地



町民の足「なんぶちえりバス」の停まる青い森鉄道剣吉駅前。奥に見えるのは平成元年に旧名川町が整備した町道剣吉駅跨線橋（愛称「あじさい通路」）

域の「マイルール意識」はかなり高いようです。

そのほかの活動は、6月と10月の桜町町内会と共同しての国道三叉路・剣吉分水ゲート周辺の奉仕作業、7月の剣吉こども夏フェス協力、8月～9月にかけての名川秋まつり準備と参加、10月の町民運動会参加があります。また、地区巡回型介護予防教室（にこにこクラブ）や自主防災会訓練実施なども。

世帯数は現在193戸で会員数は189名。このうち令和2年（2020）に子育て世代住宅として整備した「チェリータウン桜場」には、38名の会員が住んでいます。その新しい住民に、町内会活動になじんでもらえるかが課題でした。

「剣吉未来プロジェクト」への期待と名川発祥の「南部手踊り」

この地に東北本線（現青い森鉄道）剣吉駅が置かれたのが明治30年（1897）で、駅前通りには商家が増加し、生業を半商半農とする地域でした。その後、剣吉商店街は旧名川町の経済の中心地として発展してきたのですが、近年は人口減少や郊外型量販店の進出などの問題に



木村喜代治会長（令和8年5月31日）

直面し、衰退してきました。

活性化を取り戻そうと、剣吉商店会では平成22年（2010）4月に桜本町・桜町・荒町・上中町の4町内会と合同して「剣吉駅前ストリート活性化委員会」を設立。夏祭りやウォーキングイベント開催、マップ作成などの活動が高く評価され、平成28年（2016）には経済産業省の「はばたく商店街30選」に選ばれるほどでした。

近年はコロナ禍で途絶えていた夏祭りを復活させようと、令和7年（2025）に地元消防団やえんぶり組関係者が中心になり、「剣吉未来プロジェクト」が発足。同年8月16日に開催された剣吉盆踊りには約500人が参加して、伝統的な盆踊りとポッ



町内奉仕作業での花壇整備（令和8年5月31日）

学校行事や町内会での 伝統芸能継承がヒントに

名川中学校や小学校では、地域ぐるみでえんぶりや南部手踊りの伝承活動に取り組んでいます。発表会や秋の名川秋まつりでは子どもの晴れ舞台を見ようと親たちも集まります。この伝統芸能の継承が町内会活動にも大いにヒントになりました。

名川地区は「伝統芸能の宝庫」です。町無形民俗文化財には、えんぶりほか多くの芸能が保存・継承されていますが、出色なのは名川地区が発祥の地とされる「南部手踊り」でしょうか。これには南部甚句・南部あいや節など7つの踊りがあり、7つの民謡を組み合わせた「南部七唄七踊り全国大会」が毎年、9月に開催されています。



名川秋まつりでの手踊りを練習する桜本町山車組の子どもたち（令和7年9月6日）



名川秋まつりの山車を製作する青年部13名の桜本町山車組（令和7年9月6日）



子供会の児童と一緒に町内クリーンアップ作戦に参加した録田真由美さんと2人の娘さん（令和8年5月31日）

前述した駅周辺の町内クリーンアップ作戦に参加した20名ほどの児童と親たちは、そのほとんどがチェリータウン桜場の住民です。そのうちのひとり録田真由美さんはこの日、2人の娘さんと一緒に駅からチェリータウン桜場までゴミ拾いに協力しました。それは学校行事や子供会で、日頃から友達と一緒に行動することが日常になっているからということでした。

町内会の子供会は現在24名で構成され、年間の事業計画は4月にジャガイモ植え（8月に収穫祭）、5月に町内会合同クリーンアップ作戦、7月にラジオ体操、10月にビーチバレーボール大会・モルック大会、11月にハロウィンパーティー、3月に進級・進学祝いなど。子どもの喜びが親の喜びになり、それが町内会の結びつきになっていきます。



町内クリーンアップ作戦に参加したチェリータウン桜場の住民と木村会長（令和8年5月31日）

杉沢町内会

シンボル 杉中桜 がもたらした 地域の絆

杉沢地区のシンボルといえば、杉中桜があります。樹齢約百年のソメイヨシノで、南部町「達者村百景」の一つに数えられている名木です。令和5年（2023）4月、杉沢中学校は福地中学校に統合され、校地は分譲団地として造成中ですが、桜は杉沢・あけぼの・樺木町内会有志による春のライトアップや、11月末～1月末までのイルミネーションで飾られています（イルミネーションは現在、旧杉沢小学校で実施）。

明治時代以降、地方の自治組織にとって中心拠点となってきたのが小中学校でした。子どもと大人（保護者）がこぞって活動で



杉中桜／後方が分譲中の（仮称）第3あけぼの団地（令和8年4月20日）

きる場だったからです。そのようなコモン（共有）の意識が、財産区としての仕組みを継承し、町内会を運営する原動力となっています。

財産区の仕組みを継承した 「コモン（共有）」の伝統

「財産区」とは、旧村単位で共有財産を引き継ぎ、独自に管理していく仕組みで、財産には土地やインフラなどのほか、文化や共同体意識の継承という側面もあります。多くは昭和30年代に実施された「昭和の大合併」をきっかけに生まれました。杉沢地区も、昭和30年（1955）に地引村と合併して福地村になり、財産区運営をしています。

杉沢町内会が正式に誕生したのは、規約の施行が平成11年（1999）3月7日になつていたので27年前でしょうか。坂本久紀会長（66歳）は、3代目会長として就任4



旧杉沢中学校でのイルミネーション点灯（現在は旧杉沢小学校で実施）

年目になりますが、生まれも育ちも杉沢で、文化・体育・環境部長を歴任し、町内会の変遷をつぶさに見てきました。

杉沢小学校に校庭がなかった時代には畑地を整地したグラウンドで、合同の学区民運動会をしたこと、杉沢・あけぼの第1・第2子供会3班、約2百人で「泊まらないキャンプ」をしてバーベキューを楽しんだことが忘れられないといいます。また、杉沢青年団の数名が芸能保存会継承師となって子どもたちに杉沢えんぶり・小橋大神楽を指導しています。

令和8年（2026）度の主な活動計画は、3月29日が定期総会、4月19日が杉沢町内道路清掃、25日観桜会、6月・12月杉沢研修館消防訓練、7月～9月杉沢小学校



杉沢町内会の里地風景（令和8年4月17日）



定期総会で挨拶する坂本久紀会長（令和8年3月29日）



定期総会後の懇親会で演じられた小橋大神楽（令和8年3月29日）

さまざまな人材を活用し、 新旧が融和する新しい町内会に

跡地草刈り、8月9日共同墓地周辺草刈り、道路清掃、10月南部町民運動会に向けて練習、25日町民運動会参加、11月イルミネーション点灯式、12月門松づくりとなっています。

町内会活動中、特に南部町民運動会は例年のようにあかねチームとしてのぎを削り、何度も優勝しています。また、旧杉沢小学校ではマラソン練習を毎日のようにしていたように、運動熱心な地域です。

その因果関係は分かりませんが、杉沢は多くの競輪選手を輩出しています。そのうちのひとり、小橋明紀さん（52歳）に話を伺いました。明紀さんが競輪の世界に入った



競輪選手として活躍する小橋明紀さん（令和8年4月1日）



9・10月の町民運動会練習風景

のは、1984年のロサンゼルスオリンピックで銅メダルを獲得した坂本勉選手と、その兄でモスクワオリンピック選手の典男選手（ボイコットで出場せず）への憧れでした。

坂本選手の凱旋パレードを見て、平成3年（1991）の八戸工業高校1年時にはプロ入りを宣言。その後、直近では令和7年（2025）7月1日にS級2班に所属し、同年11月22日のF1レースでS級予選突破と、息が長い活躍をしています。

坂本会長は、今後の町内会活動に向けて

事業のメニューを多様にし、それぞれ班体制に分かれて実施することを考えています。町内に住む、さまざまなキャリアや得意分野を持つ人材を講師にし、会員が興味を持って参加できる講座やワークショップを開くことなど。筋トレやメンタルトレーニングに持

論のある小橋選手もその候補者になりそうです。

また現在、杉沢には中学校跡地に（仮称）第3あけぼの団地を造成し分譲中ですが、そこに町外から移住してくる家族も巻き込み、新旧が融和した新しい杉沢町内会を築くのが夢です。



未来に希望が持てるまちづくりを推進

●南部町の将来像／10年後のまちの姿／
みんながつながり
達者※に暮らす
笑顔あふれるまち 南部町

本町には先人から受け継がれてきた歴史・文化、伝統、風習などが各地域に根付いています。これらは、まちでの暮らしを「達者」に営むための、いわゆる「南部町らしさ」につながっています。今後、まちの姿が変わっていく中でも子や孫に「南部町らしさ」を引き継いでいくことで、世代や時代がつながっていきます。本町では、この先10年かけて、町民だけでなく、まちを訪れる人やまちを想うすべての



えんぶり
(玉掛えんぶり組の子どもたち／令和8年)



達者村開村20周年記念式典 (令和6年)

人の心をつなぎ、まちにかかわる人の笑顔であふれるまちを目指します。

※達者／学問・芸能などの道に熟達している人。達人。物事に慣れていて、巧みなさま。からだが丈夫で健康なさま。

基本目標 ①

産業振興で活力と交流に満ちたまち

安全・安心な食料生産拠点を目指す農業振興を基本に、農業や商業、工業、観光などの各産業間の連携を強化し、活力あるまちづくりを目指します。

町内外の人々が様々な機会を通して活発に交流する、ふれあいに満ちたまちづくりを目

指します。

『政策1』 地域を支える農業の振興

『政策2』 賑わいと暮らしを支える商工業の振興

『政策3』 新たな活力を生み出す雇用対策の推進

興

『政策4』 交流を促進する観光・交流産業の振興

基本目標 ②

保健・医療・福祉が充実して

安全・安心・快適に暮らせるまち

保健・医療・福祉が連携した地域包括ケア



全国操法大会に出場 (平成30年)



(仮称) 第3あけぼの団地造成地 (完成予想図)

システムの機能が拡充され、町民一人ひとりが健やかに暮らすことのできるやさしいまちづくりを目指します。

【政策5】健康に暮らせる保健・医療・福祉の充実

【政策6】便利で暮らしやすい生活基盤の充実

【政策7】安心して暮らせる防災・安全の充実

基本目標 3

環境と共生して幸せを実感できるまち

豊かな自然、美しい景観を守り、環境に配慮した快適で住みやすいまちづくりを目指します。

まちの発展に向けた計画的かつ調和のとれたまちづくりを目指します。

【政策8】豊かでかけがえない自然環境の形成

【政策9】快適で住みやすい生活環境の形成

【政策10】適正な土地利用の推進



「名川秋まつり」山車の運行 (令和7年)

基本目標 4
明日を担う人を育て
一人ひとりの個性を活かすまち

町民が、同世代あるいは世代間で、自主的に生涯学習活動に取り組むことができるまちづくりを目指します。

古くから地域に伝わる文化や伝統を守り後世に伝えるための活動や、新しい文化を創造するための活動など、様々な場面で人づくりを支援し、一人ひとりの個性を大切にすまちづくりを目指します。

【政策11】未来を担う人づくりの推進

【政策12】貴重な地域文化の継承と新たな文化の創造

基本目標 5

協働と参画により町民が主役になるまち

自分たちのまちは自分たちでつくるとい



町内会奉仕作業での花壇整備 (令和8年)

意識を醸成しながら、町民一人ひとりが生き生きとして、地域や世代で連携しながら、町民と行政の協働によるまちづくりを目指します。

【政策13】地域を活性化するコミュニティ活動の推進

【政策14】協働と参画によるまちづくりの推進

【政策15】男女共同参画社会と人権尊重社会の構築

基本目標 6

計画的・効率的な行財政運営を目指すまち

健全で安定した行財政運営を継続し、町民に対する行政サービスの維持向上を目指します。

【政策16】効率的な行財政運営と広域行政の推進

工藤町長のまちづくり

*以下、5つの分野の施策は、令和8年（2026）1月20日に無投票当選で6期目を迎えた工藤祐直町長の目指すまちづくりです。

教育の充実

- ▶ 小中学校でのICT教育の充実
- ▶ 高等教育修学資金の充実・一部返済免除
- ▶ 名久井農業高等学校の存続へ向けた支援（県外入学・昼食提供・修学支援金）
- ▶ 教職員の働き方改革（校務支援システム導入等）
- ▶ 小中学校の適正規模を目指した統合検討

子育て・若者移住対策の促進

- ▶ （仮称）第3あけぼの団地整備による若者世帯移住促進
- ▶ 一時的にお預かりする保育「病後児保育」の実施
- ▶ 3～5歳児副食費無償化
- ▶ 学校給食費無償化・地場産食材の提供
- ▶ 小中学生修学旅行支援・小学生ランドセル購入支援・中高生制服購入支援・高校生修学支援

農・商・工・観光の振興

- ▶ 南部支所を活用した南部町歴史ミュージアム（黒柳徹子記念ルームを併設）の整備



工藤祐直町長
（庁舎のランドマークにもなっているイチョウの樹の前で）

農業等の労働力確保事業

- ▶ スマート農業、GX化の推進
- ▶ ジュノハート・ゼネラルレクラーク・南部太ねぎ・南部産者米のブランド化推進
- ▶ 観光・文化施設の充実、観光資源の活用
- ▶ 物価高騰対策特別プレミアム商品券50パーセント増の発行

高齢者福祉・健康増進の充実

- ▶ 医療・福祉・保健等が連携した包括ケアシ

システムの推進

- ▶ 介護保険（保険料・町内施設等）の適正運営
- ▶ 健康寿命延伸へ向けた各種支援プログラムの実施
- ▶ 国際交流センターを活用した介護人材の育成・確保
- ▶ 健診・がん検診の受診率向上
- ▶ 「笑顔あふれる健康のまち宣言」に基づく健康づくり対策の充実
- ▶ 鍋条例を通じた食育・食生活改善の推進
- ▶ 母子保健、ハイリスク妊産婦支援、各種予防接種の実施

生活環境の整備

- ▶ 県道バイパス道路の早期実現
- ▶ 馬淵川河川整備の促進
- ▶ 各地区集会施設の計画的整備
- ▶ 消防団屯所・消防車両・装備品の計画的整備
- ▶ 命を守る希望の橋の実現
- ▶ 南部地区町営住宅の整備
- ▶ なんぶちえりバスの利便性向上・無料化

持続可能なまちづくりの実現

地方自治を取り巻く環境は急速に変化しており、私たちはさらなる変革と対応を求められています。

町議会としても、二代表制の一翼を担う責任を深く認識し、町民の負託に応えるよう研鑽を重ね、持続可能なまちづくりの実現に向けて全力で取り組みます。

南部町議会議員名簿（敬称略）

令和5年10月1日～令和9年9月30日

議長 工藤 正孝

副議長 西野耕太郎

議員 沼畑 俊吉

夏堀 剛充

小橋 昭裕

工藤 愛

松本 啓吾

久保 利樹

坂本 典男

滝田 勉

山田 賢司

八木田憲司

中館 文雄

根市 勲

馬場 又彦

川守田 稔



議長・工藤正孝

副議長・西野耕太郎



すべては町民の幸せのために

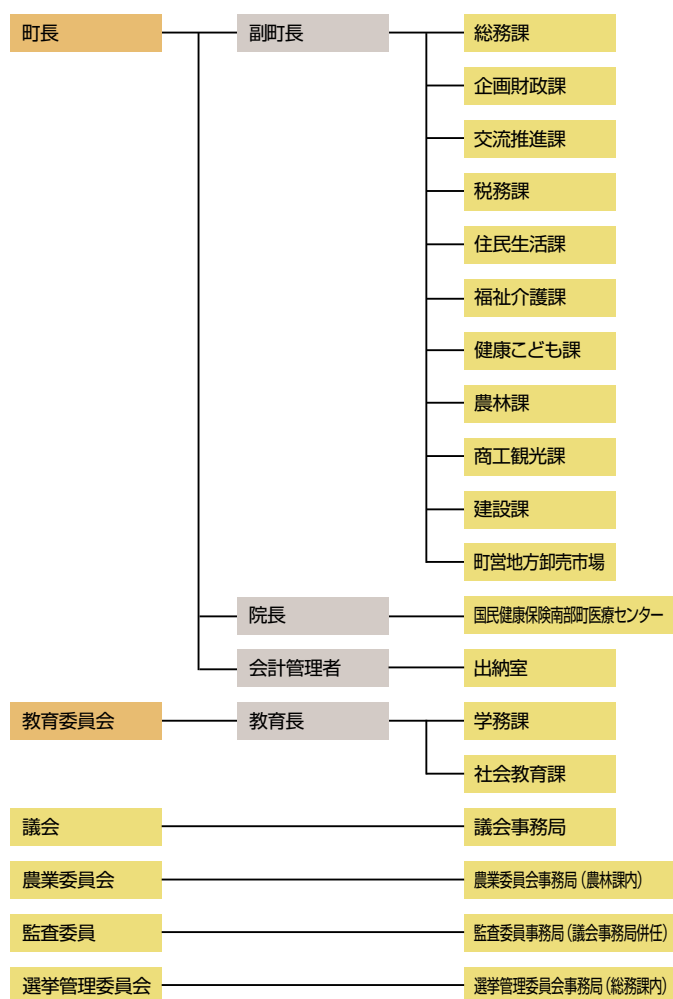


副町長・久保田敏彦

町長・工藤祐直

教育長・高橋力也

南部町行政組織図 (令和8年4月1日現在)



町では、平成30年度（2018年4月）から10年間で基本構想期間とする「第2次南部町総合振興計画」を策定し、現在、令和9年度を最終とする後期基本計画を実践中です。

計画の基本理念は「将来的な人口減少や長寿化の中で、多様化する価値観やライフスタイルに対応しつつ、町民が住み続けられ

る持続可能なまちづくりを推進します。また、町に住む人と訪れる人が安全・安心や幸せを実感し、未来に希望が持てるまちづくりを推進します」というものです。

そのため、行政システム体制の強化・整備による機能的行政機関の確立と信頼される行政を目指し、有効的な財政の運営を行い、まちの発展に努めます。



土地利用

◎各年1月1日現在

(単位: km²)

年 度	内 訳						
	田	畑	宅地	山林	原野	その他	計
令和5年	11.73	32.05	6.27	63.27	7.62	32.18	153.12
令和6年	11.60	31.25	6.28	63.26	8.26	32.47	153.12
令和7年	11.44	31.15	6.29	63.23	8.38	32.63	153.12

資料: 税務課(固定資産税概要調査)



気 象

令和7年	日最高気温 月平均 (℃)	日最低気温 月平均 (℃)	日照時間 月合計 (h)	降水量 月合計 (mm)	降雪 月合計 (cm)	日平均風速 月平均 (m/s)
1月	4.5	-4.9	108.1	67.0	83	1.2
2月	4.2	-5.5	148.1	37.5	80	2.1
3月	9.5	-1.4	158.7	85.5	22	1.9
4月	15.5	5.0	122.0	84.5	0	1.9
5月	21.2	8.4	176.4	105.5	0	1.6
6月	28.1	15.3	230.9	56.0	0	1.5
7月	32.8	20.5	220.4	22.0	0	1.2
8月	31.5	19.6	218.0	241.0	0	1.1
9月	26.7	15.0	172.5	154.5	0	1.0
10月	18.6	7.0	121.9	92.0	0	0.9
11月	12.3	1.0	120.1	131.0	0	1.4
12月	6.1	-2.9	101.2	129.5	37	1.4

出典: 気象庁(観測点:三戸)



人口動態

(単位: 人)

年 度	自然動態								
	出生			死亡			増減		
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
令和5年	35	31	66	178	192	370	-143	-161	-304
令和6年	27	34	61	171	210	381	-144	-176	-320
令和7年	24	24	48	155	188	343	-131	-164	-295

年 度	社会動態								
	転入			転出			増減		
	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数
令和5年	188	176	364	207	215	422	-19	-39	-58
令和6年	165	145	310	173	204	377	-8	-59	-67
令和7年	189	197	386	190	217	407	-1	-20	-21

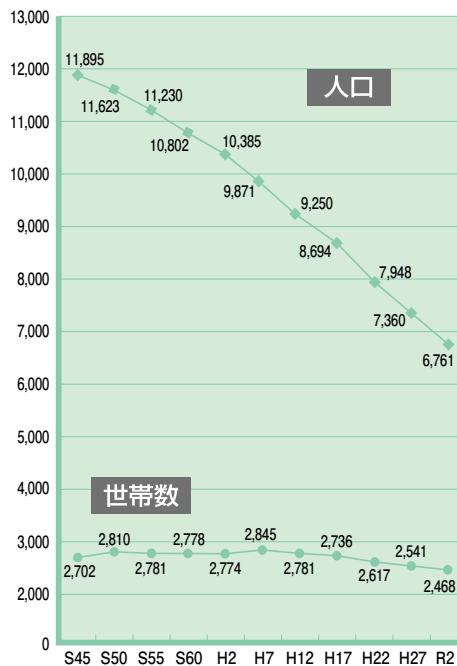
資料: 県人口移動統計調査



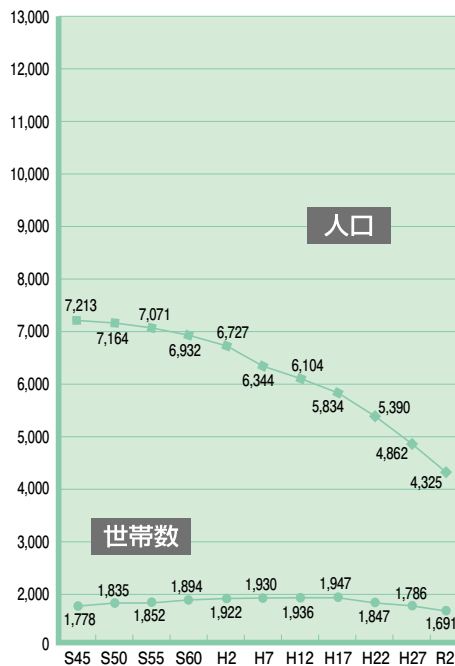
国勢調査人口・世帯数

◎各年10月1日現在

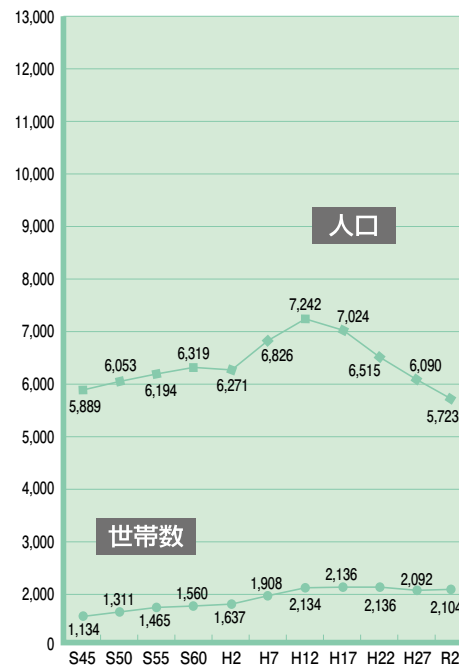
令和2年10月1日 ■人口:16,809人(男 7,884人、女8,925人) ■世帯数:6,263戸



旧名川町



旧南部町



旧福地村

資料：国勢調査

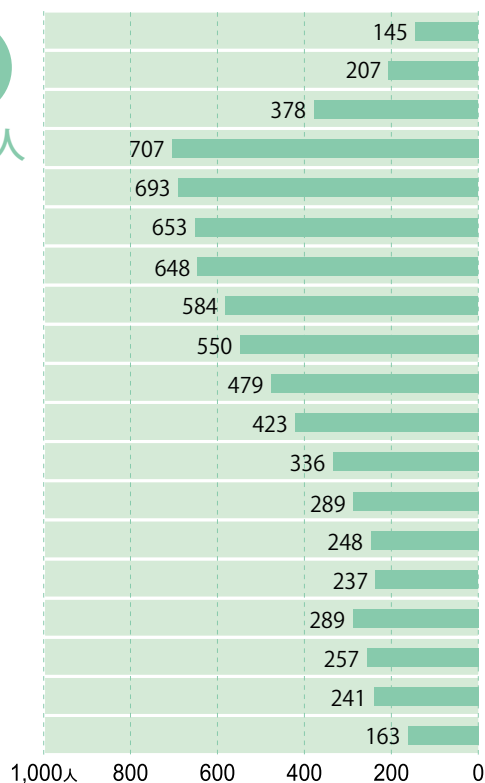


年齢階層別人口

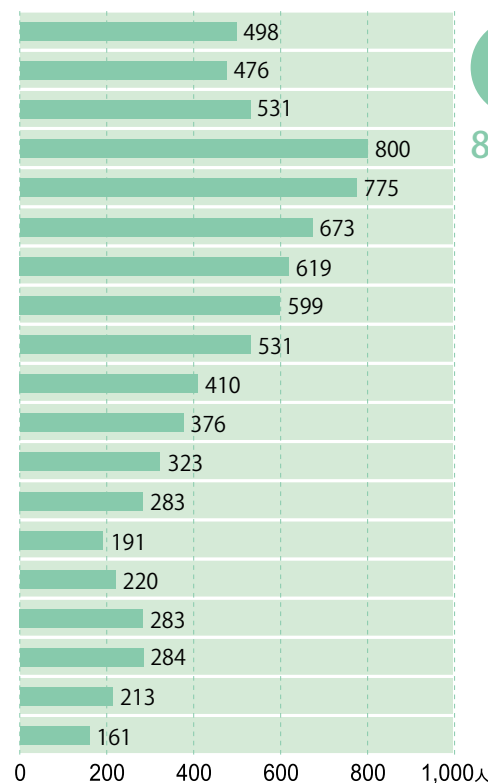
◎令和8年4月1日現在

■人口:15,773人 ■世帯数:7,340戸 ■人口密度(1km²当たり):103.0人 ■世帯当たり構成員数:2.15人

男
7,527人



90歳以上
85～89歳
80～84歳
75～79歳
70～74歳
65～69歳
60～64歳
55～59歳
50～54歳
45～49歳
40～44歳
35～39歳
30～34歳
25～29歳
20～24歳
15～19歳
10～14歳
5～9歳
0～4歳



女
8,246人

資料：住民生活課(住民基本台帳)



各種検診の受診者数

(単位：人)

年 度	健康診査	胃がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん	肺がん	前立腺がん	骨密度
令和3年	1,584	1,304	2,490	1,066	679	3,034	957	106
令和4年	1,492	1,234	2,462	1,002	641	2,923	894	95
令和5年	1,352	1,432	2,318	457	615	2,722	—	85
令和6年	1,287	1,167	2,232	595	662	2,680	—	74
令和7年	1,225	1,118	2,166	452	591	2,629	—	82

資料：健康こども課



予防接種の接種者数

(単位：人)

年 度	BCG	ロタ	二種混合	四種混合	五種混合	MR	日本脳炎	ヒブ	肺炎球菌	水 痘	子宮頸がん	B型肝炎
令和3年	68	148	106	286	—	171	374	286	285	146	74	209
令和4年	60	143	95	265	—	169	467	259	256	152	244	181
令和5年	61	138	78	253	—	143	344	247	239	125	274	181
令和6年	61	145	70	96	164	142	357	63	234	124	392	171
令和7年	52	122	108	15	218	125	306	3	214	101	91	163

資料：健康こども課



児童福祉施設の概況

◎各年4月1日現在

年 度	学童クラブ		こども園	
	数	児童数(人)	数	児童数(人) ※町内施設利用人数
令和3年	8	259	4	342
令和4年	8	231	4	342
令和5年	6	225	4	357
令和6年	5	247	4	349
令和7年	4	248	4	325

資料：健康こども課



小・中・高等学校の概況

◎各年5月1日現在

年 度	小学校			中学校			高等学校			
	学校数	学級数	児童数(人)	学校数	学級数	生徒数(人)	学校数	学科数	学級数	生徒数(人)
令和3年	8	57(16)	650	4	21(6)	374	1	2	7	216
令和4年	8	56(15)	632	4	20(6)	341	1	2	6	175
令和5年	3	33(8)	619	3	19(6)	327	1	2	6	155
令和6年	3	32(9)	596	3	19(6)	317	1	2	6	141
令和7年	3	33(9)	605	3	18(6)	301	1	2	6	123

※小・中学校の()は特別支援学校

資料：学校基本調査



農 業

◎各年2月1日現在

年 度	戸数(戸)			農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員数)(人)								
				男			女			計		
	専業農家	兼業農家	計	15~64歳	65歳以上	計	15~64歳	65歳以上	計	15~64歳	65歳以上	計
平成17年	485	1,153	1,638	769	732	1,501	917	895	1,812	1,686	1,627	3,313
平成22年	519	937	1,456	639	678	1,317	693	794	1,487	1,332	1,472	2,804
平成27年	526	705	1,231	474	617	1,091	551	655	1,206	1,025	1,272	2,297

資料：世界農林業センサス・農林業センサス



事業所の概況

◎平成21年・平成26年は7月1日、平成28年・令和3年は6月1日現在

(従業者数：人)

産業分類	平成21年		平成26年		平成28年		令和3年	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総 数	752	4,342	649	4,334	613	4,044	561	4,102
農 業	11	132	12	115	10	65	12	95
林 業	2	17	2	17	2	16	2	11
漁 業	1	65	1	28	1	5	1	29
鉱 業	1	6	1	12	1	10	1	9
建設業	101	696	80	562	74	525	67	505
製造業	73	605	75	838	67	762	47	614
電気・ガス・水道業	0	0	0	0	0	0	0	0
情報通信業	0	0	1	2	1	0	1	0
運輸(通信業)	13	119	11	93	12	92	8	94
卸売・小売業	254	1,046	210	941	200	908	169	934
金融・保険業	12	57	8	43	7	42	5	20
不動産業・物品賃貸業	15	33	13	14	11	18	6	10
飲食店・宿泊業	56	236	43	201	38	151	27	94
医療・福祉	44	801	54	1,005	54	1,057	76	1,161
教育・学習支援	5	19	4	15	4	7	9	101
複合サービス業	14	70	14	71	14	60	11	51
サービス業	104	227	96	271	94	227	80	217
他に分類されないもの	46	213	24	106	23	99	39	157

資料：経済センサス基礎調査・経済センサス活動調査



産業別総生産

(単位：百万円)

年 度	第1次産業				第2次産業				第3次産業				
	農 業	林 業	水産業	小 計	鉱 業	製造業	建設業	小 計	電気・ガス・水道・ 廃棄物処理業	卸売・小売業	運輸・郵便業	宿泊・飲食 サービス業	情報通信業
令和3年	5,472	107	0	5,579	184	5,318	3,041	8,543	1,441	3,738	972	128	0
令和4年	4,785	122	0	4,907	229	4,681	3,272	8,182	1,229	4,055	1,052	131	0
令和5年	5,150	95	0	5,245	225	3,978	2,731	6,934	1,609	4,425	1,241	153	0

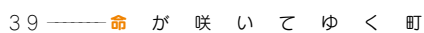
年 度	第3次産業								産業計	輸入品に 課される 税・関税	(控除) 総資本形成 に係る消費税	総生産
	金融・ 保険業	不動産業	専 門・ 科学技術・ 業務支援 サービス業	公 務	教 育	保健衛生・ 社会事業	その他 サービス業	小 計				
令和3年	402	5,570	545	2,999	3,073	6,592	1,862	27,320	41,442	287	964	40,765
令和4年	405	5,620	543	3,078	2,993	6,354	2,125	27,584	40,673	377	1,212	39,839
令和5年	454	5,663	568	2,967	2,278	6,655	2,464	28,478	40,657	415	886	40,186

※四捨五入のため、計と内訳との合計が一致しない場合があります。

資料：青森県総合政策部統計分析課（市町村民経済計算）

A group of children in traditional Chinese clothing, including pink and purple robes and golden headpieces, are performing or posing for a photo. A man in a dark jacket is visible in the background, holding a camera.

A large group of people, mostly seen from the back, are sitting on the ground in a grassy area. They are facing a stage that features a large, curved, arched structure with a screen. The screen displays a person. The event appears to be outdoors, with trees visible in the background. The people are dressed in casual clothing, and the overall atmosphere is that of a community gathering or festival.

[illegible]

2026●青森県南部町●町勢要覧

発行———南部町

〒 039-0592

青森県三戸郡南部町大字平字広場 28-1

TEL 0178-76-2111 (代)

FAX 0178-38-5974

<https://www.town.aomori-nanbu.lg.jp>

編集／南部町企画財政課



【表紙について】

*タイトルの「命が咲いてゆく町」や、ぼたん・あじさい・菊に添えたフレーズは、平成28年（2016）1月1日の南部町合併10周年を記念し、同町出身のシンガー・ソングライター坂本サトルさんが作詞作曲した記念歌『3つの花』から抜粋したものです。

*この歌は、当時の町内全12校の小中学生と共に創り上げた作品で、坂本さんは「町で暮らしている皆さんへの応援歌でもあります」と語っています。

*花の写真をソフト・フォーカスタッチにしたのは、咲いたばかりの命の初々しいやわらかさを表現するためです。